

論文発表報告

タイトル：

東北アジア研究センターの滕媛媛助教、環境科学研究科の中谷友樹教授・埴淵知哉准教授、東京医科大学の町田征己講師の共同研究は、学術雑誌 *Vaccine* に掲載されました。本成果の一部は、2021年度若手研究者アンサンブル Grant 新規課題「在日外国人の社会統合状況とコロナ禍における生活実態に関する調査研究」によるものです。

詳細：

論文タイトル：Psychological determinants of COVID-19 vaccine acceptance: A comparison between immigrants and the host population in Japan

ジャーナル名：Vaccine

著者（敬称略）：Yuanyuan Teng, Tomoya Hanibuchi, Masaki Machida, Tomoki Nakaya

掲載日：2023年1月24日

概要：

新型コロナワクチンの接種は日本人のみならず外国人住民にとっても重要ですが、その接種意向に違いがみられるのか、またそれを規定する心理的要因が異なるのかは不明のままでした。

東北大学東北アジア研究センター 滕媛媛助教、東北大学大学院環境科学研究科 中谷友樹教授・埴淵知哉准教授、東京医科大学 町田征己講師は、在日外国人 1,986 名および日本人 1,704 名を対象とした調査を実施し、新型コロナワクチンの接種状況・意向、その心理的要因を比較しました。調査・分析の結果、外国籍住民、特に日本生まれの人の接種意向は高いものの接種率は低いことがわかりました。また、海外生まれの外国籍住民における新型コロナワクチンの接種意向の心理的要因は、日本人とは大きく異なるのに対し、日本生まれの外国籍住民の心理的要因は日本人と類似していました。本研究結果は日本のマイノリティ集団における健康の規定要因を解明する上で、重要な実証的価値を持つものです。

関連リンク：

論文はこちら <https://doi.org/10.1016/j.vaccine.2023.01.037>

詳しくはこちら

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/02/press20230209-01-covid.html>